【271】

氏　名(本　籍)	石井由香(埼玉県)
学位の種類	博　士(社会学)
学位記番号	博乙第 1,358 号
学位授与年月日	平成10年2月28日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	社会科学研究科
学位論文題目	**エスニック関係と人の国際移動** －現代マレーシアの華人の選択－

主　査	筑波大学教授	博士(社会学)	駒井　洋
副　査	筑波大学助教授	博士(人類学)	竹沢泰子
副　査	筑波大学講師	博士(社会学)	若林幹夫
副　査	一橋大学教授		梶田孝道

論文の内容の要旨

本研究の目的は，マレーシアにおいて1970年以降20年間にわたったブミプトラ政策と呼ばれるマレー人優先政策がなぜ大きな破綻をきたすことなく遂行されえたのかを理論的に解明することにある。そのため，本論文はとくに華人の対応に重点をおく実証研究をおこなっている。

考察にさいしては，エスニシティ研究における資源競合的アプローチと，国境をこえる移動に着目するトランスナショナル・アプローチが採用された。第一のアプローチについては，政策の実施状況，華人の階層分化による争点の分離，華人の現実的政策対応が，また第二のアプローチについては，マレーシア外への移動がそれぞれ検討される。結論的には，マレーシアの華人にとってはマレーシアという場はひとつの選択肢にはちがいないが原初的な愛着の対象という点では他にかえられないという条件のもとで，国外から帰国する華人にたいして雇用機会が用意されていたことが，ブミプトラ政策の遂行を支えたとされる。

本論文は，目的と方法が明らかにされる序章，3章からなる第1部，同じく3章からなる第2部，結論を提示する終章から構成されている。「現代マレーシアのエスニック関係」と題される第1部が主としてマレーシア国内のブミプトラ政策とそれにたいする華人の対応を分析しているのにたいし，「華人の国際移動」と題される第2部は主として華人の国際移動を分析している。以下各章ごとにその内容を紹介する。

「ブミプトラ政策下の教育制度と雇用構造」と題される第1章では，まず教育制度においてマレー語の優先と公立学校からの華人の相対的排除の状況が概観され，非マレー人が海外留学や私立学校に進学するという複線化という現実主義的方策がとられているとする。また雇用構造についてはマレー人が学歴を背景として政府サービス部門に集中しているのにたいし，非マレー人は学歴という威信体系に組みこまれないため集団として活性化しにくいという仮説が提示される。華人の社会階層については，中間層，下層が上層にたいして不信感をもっており，エスニック集団としての華人の連帯を弱めている。

「ブミプトラ政策下の言語・教育問題における華人の政治・社会運動」と題される第2章では，ブミプトラ政策以前と以後に分けて華人の対抗運動が検討されている。政策以前については，とくに華人のための独立大学を設置しようとする運動が1969年の華人の暴動の底流にあったことが整理される。政策以後については，華人社会内部の階層分化のため言語・教育運動が発展しにくかったとされる。

「華人中間層の選択－留学と移住」と題される第3章では，国内での機会を剝奪されている華人上・中間層が

国外への留学と移住と向かったことを前提として，英語圏であるオーストラリアと漢字文化圏である日本における実態が検討される。前者については専門技術を身につけようとする意欲が強く，オーストラリアへの永住意志はあるものの就職はマレーシアでなされるとしている。日本については永住意志がほとんどなく，帰国後はマレーシアの日系企業で働こうとしている。

「華人下層の国際移動の経済的要因－なぜ出稼ぎにでるのか？」と題される第4章では，まずマレーシアが周辺国からの出稼ぎ労働者を受け入れながら主として日本に出稼ぎを送り出す「階段状の移動」があることを指摘し，ついでS. サッセンによる生産の国際化による間接的イデオロギー的つながりが国際移動に影響するという仮説が紹介される。

「日本の華人系マレーシア人非合法滞在者調査」と題される第5章では，著者自身によるフィールドワークをもとに，サッセンの仮説が反駁される。調査対象者の学歴が低くて大都市出身者が多いことから華人下層の出身であることがわかる。この人びとには日本とのイデオロギー的つながりはみられず親戚・友人やエージェントなどを頼って来日しているので，サッセンの仮説は成立しない。

「華人の国際移動の政治的要因」と題される第6章では，シンガポール，台湾，日本，マレーシア政府の外国人労働者政策を比較しながら，なぜ出稼ぎが主として日本に集中するのかという問題に接近している。シンガポールでの就労が合法的であるのにたいし台湾では非合法就労者が多かったが，取り締まりの強化とともに出稼ぎの目的地を日本へとシフトさせたのである。一方マレーシア政府も自国民の他国における不法滞在を歓迎してはおらず，これは非合法就労者を抑制する条件である。

「要約と結論－NDP下の状況をふまえて」と題される終章では，ブミプトラ政策のもとでのマレー人優先が進展した結果，それを基盤として1990年代に文化的統合が推進されるようになったという展望が与えられる。

審査の結果の要旨

本論文はつぎの諸点で，国際社会学研究に大きい貢献をしなとげている。

(1)国内のエスニック間関係が人の国際移動に与える影響を理論的に解明した。

(2)エスニック間関係についても，階層的視点を導入することによりマイノリティ集団の運動が形成されにくい条件を明らかにした。

(3)もともと移動者であったマレーシアの華人のもつアイデンティティの様態を明らかにした。

(4)とくに日本における非合法滞在者については，精緻なフィールドワークをおこなってオリジナルなデータを収集するとともに，マレーシアについては重要な統計などをはじめとする丹念な資料収集と実地調査をおこなった。

ただし，第1部と第2部のつながりが若干弱く，また理論的には資源競合的アプローチとトランスナショナル・アプローチの関係にやや混乱がみられるが，本論文の価値を損なうほどのものではない。

よって，著者は博士（社会学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。